

## 宗教書ではありません

私は、かれこれ十五年くらい、「心の学び」（これにつきましては、この章で順を追って説明しています）」をしています。

また、この本には、愛と死の真実という何やら大げさなタイトルが付いています。

しかし、ここで言う「心の学び」についても、本書についても、宗教というものと全く無縁であることを、最初に、はっきりとお断りしておきます。

哲学とかそういう難しいジャンルにも入りません。

従いまして、どこそこの宗教団体の勧誘書ではありませんので、どうぞ、ご心配なく、読み進めていってください。

「心の学び」というからには、何か宗教だろうとか、何か難しいことをやっているのではないかとか、そう思われるかもしれませんが、そうではないのです。

確かに、愛とか心などの言葉が出てくるので、誤解されやすいし、学びというから、何か構えてしまうかもしれません。

特に、若い人達には、愛とか死とか、心とか、そんな辛気臭いしんきくさとはどうでもいいじゃない、とりあえず、今が楽しければいい、もっとしたいことも山ほどあるしという人も、たくさんおられると思います。

お金を稼いで、恋人を作って、おいしいものを食べて、好きなことをして、おもしろおかしく生きていきたいと思うかもしれません。しかし、どうでしょうか。世の中、そんなに楽しいことばかりあるわけではないですよね。

何もかも自分の思い通りにいくわけがないし、近頃、何だか物騒だし、こん畜生、あん畜生の毎日が続いていませんか。

話は戻りますが、この「心の学び」ということについて、少し説明させてください。

私には、これまでに、田池留吉氏という人を中心にしたセミナーを通して、全国津々浦々に、そして、海外にもたくさん仲間達が

います。

宗教の世界、精神世界、あるいは心理学といったジャンルに属さない、私達の学びの輪の仲間達があります。

私は、その学びの輪のことを、私達の世界と表現していますが、そこには何も特別な世界があるわけではないのです。

その輪に入ってくるのに、何も特別なものは要らないのです。

誰でもが入れる輪です。

その輪は、お金も要らなければ、地位や名誉も要らない、男も女も、年寄りも若い人も、大歓迎の輪なのです。

そして、もっと本当のことを言わせてもらえれば、その輪には、みんな、すでに入っているのです。

ただ、輪の中にいることに気付いていない人達が、今現在は大半だということです。

その人達に、入会資格も要らないし、入会金も要らない、紹介状も要らないその私達の輪を、少し覗いてみませんかとお誘いしているだけです。

覗いてみて、立ち寄ってみて、私達はあなたから何かを乞うこともありません。

また、私達の世界は、道徳、規律、修行といったもので自分の心を縛り、自分を縛っていくことにも無縁の世界です。

私達は、自由に伸び伸びと、しかし、真剣に、ただ「自分の心を見る」ことをやっていくことを学んできました。

ところで、あなたは、「自分の心を見る」ということを聞かれて、今、どのような感想を持たれていますか。

「心を見る」、何の変哲もない表現です。

しかし、「心を見る」ということを、これまでに耳にされたことがあるかといえば、案外少ない、いいえ、ないと思います。

「心を見るって、どういうことだと思いますか」

と、聞かれたときに、

「心を見るということだから、自分の今思っていることを振り返るとか、語ってみるとか、そういうことかなあ。」

だけど、自分が今、心で思っていることって何だろうか。

そういえば、私が心で思っていることと、実際に話していることとは、最初から最後まで全部、ピッタリ一致しているとは言えないなあ。

時には、全く反対のことを言っている場合もあるし……。

まあいいか、どうせ、黙っていれば、私が心で思っていることは相手に通じないのだから……。」

「なぜ、心で思っていることを、そのままストレートに話すことができない自分があるのだろうか。

私は、本当はこんなふうに思っているのに、その三分の二も、いえ、半分さえも言えないのはなぜかなあ。

ぐつと言葉を飲み込んでしまう自分があつて、いやだなあ。こんな私は苦しくていやだ。」

「何で、私は自分が心にも思つてもいないことを、こんなに口からスラスラと出てくるのだろうか。私つて怖い。他の人も、こんな感じなのだろうか。心と裏腹なことを、みんな言っているのかしら。」  
　　こういうふうには、心を見るところとはどうということかと聞かれたことから、あなたの心は、様々な方向に向いて、色々な思いを発していくでしょう。

例えば、相手と会話をしている、今話題になっている事柄よりも、どこか違うところに、自分の思いが向いていることを感じたこととはありませんか。



「心」ここにあらざうという言葉にもあるように、「心」は、絶えず動いているのです。

朝、目が覚めて、一日の活動をし始めると、目から耳から色々な映像や音が、自分の中に飛び込んできます。

そういうものを見て聞いて、あなたの心は、絶え間なく動き続けているのです。

ということは、あなたは、知らず知らずのうちに、様々な思いを出しているのです。

実は、言葉によって、その思いを伝えなくても、もうすでに、自分の心から発せられた思いは、エネルギーとなって放出されています。

いくら言葉で修飾しても、言葉で伝える思いとは別の思い（波動）が流れ出ているのです。

この仕組みが、ほとんどの人にはまだ、理解されていません。

黙っていれば、相手には分からないと思うかもしれませんが、黙っていても思い（波動）は流れています。

また、言葉を重ねることによって、自分の思いは相手に通じているとか、相手を説き伏せることができるとか、納得させることができるとか、そのようにも考えておられると思います。

もちろん、そうすることによって、通じる話もあるし、説き伏せたり、納得させたりする内容の話もあります。

それはそれでいいのです。

所詮、その内容は、形の世界のことだからです。

しかし、本当のことはというと、例えば、本当の優しさであるとか、温もりであるとか、喜び、幸せ、愛などというものは、とても人間が用いてきた言葉などでは、言い表すことはできないのです。

つまり、こういうことです。

言葉に乗せて、思い（波動）が流れます。

言葉を使っている人の思い（波動）が、確かに流れます。

そして、問題は、その流れている思い（波動）はどうなのかという事です。

言葉で喜びとか愛を表現しているけれども、果たして、それは真実の喜び、真実の愛を語っているのかどうなのかということなのです。